

基本目標	取組の柱	事業名等	概要	単位	令和2年度実績	令和6年度実績	令和6年度時点達成率	評価点	令和7年度成果指標	事業実績(効果)
1 いつでもどこでも相談できる仕組みづくり	1-1 なんでも相談できる	福祉なんでも相談窓口相談者数	身近な場所で、子どもから高齢者まで、障害の有無にかかわらず、地域で暮らす全ての人の様々な困りごとや悩みごとの相談に応じ、関係機関と連携しながら問題を解決できるように支援する。	人	6,987	9,301	372%	5	2,500	福祉なんでも相談窓口の周知も進んできており、相談件数は増加傾向にある。支援者間での連携がスムーズになったことで、課題解決・課題改善により終結する割合が増加している。
		生活相談サポートセンターうべ相談者数	就労できない、住居がない、収入がない、負債がある等の悩みを抱えた相談者に対して、生活と就労に関する相談員が包括的な相談支援を行い、相談者に応じて自立に向けたプランを作成し、関係機関と連携して支援を行う。	人	1,838	2,996	67%	3	4,500	相談・就労・家計に関するノウハウを有する3つの事業所による共同事業体により事業を実施。新規相談件数はコロナ禍前の水準となっているが、1人あたりの相談者が抱えている課題は増加傾向にある。各事業所の専門性を活かした支援により、支援プラン策定者の約8割は自立に向けての改善が見られた。その結果、課題解決率が上昇した。
2 誰もが参加し、支援しあえる地域づくり	2-2 活躍の場がある	ご近所ふれあいサロン参加者	仲間・生きがいづくり、介護予防や健康の保持・増進を目的に、地域団体や社会福祉法人等と協働しながら、身近な地域で誰もが気軽に集い、様々な交流及び活動を行う地域福祉の拠点(ご近所福祉サロンやふれあい・いきいきサロン等)の活動推進を図る	人	89,029	82,516	67%	3	123,800	運営支援を行うとともに、地区社協連絡協議会等で周知をする等立ち上げ支援を行った。
	2-1 誰でも担い手になれる	うベシニア大学終了者数(累計)	高齢者が新たな技術の習得や人とのつながりを広げ、地域活動等の担い手となることにより、住民が世代を超えて共に支え合う地域共生のまちづくりを目指す。	人	27	152	84%	4	180	退職後の高齢者等を対象とし、生涯活躍できる人材の育成や環境整備を促進するため「うベシニア大学」の取組を推進した。シニア大学は、宇部市老人クラブ連合会が主体として取組を実施してきたが、新規会員の獲得が少なく、今後も同様の状態が見込まれることから令和7年3月末をもってシニア大学は終了することとなったが、152人が修了者となり、地域活動等の担い手を育成した。
3 住み慣れた地域で安心・安全に暮らしていける仕組みづくり	3-2 いのちを支える支援を充実させる	宇部市成年後見センター新規相談件数	成年後見制度に関する周知・啓発、相談業務や、家庭裁判所等の関係機関と連携しながら、認知症高齢者や障害者等の権利擁護のためのネットワークづくり等を行う。	件	195	204	68%	3	300	関係機関の成年後見制度への理解が広がったことにより、成年後見センターへ相談する前に、関係機関である程度の筋道を立てられるようになった。そのため、新規相談件数は横這いとなっているが、継続相談を含めた全相談件数は増加している。
		災害時要援護者支援制度登録者数	高齢者や障害者で、災害時に自力では迅速な避難行動ができず、身近に親族などの支援者がいない方は、災害時要援護者として登録していただくことで、災害時に避難支援を行う制度です。災害時の避難支援をより実効性のあるものとするため、現在策定している一人ひとりの状況にあったプランの精度の向上に取り組む。	人	450	778	130%	5	600	令和4年度からハザードマップ上の危険なエリアに居住する要介護認定を受けた方や障害をお持ちの方等を対象に個別避難計画作成を進めている。

達成度	平均点 3.8
100%以上 評価点5	
80～99% 評価点4	
50～79% 評価点3	
20～49% 評価点2	
20%未満 評価点1	